

熊本市立第一高等学校 令和元年度学校評価表

1 学校教育目標
「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人権教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「県体育保健課取組の方向」及び本校の「白梅の精神」等に則り、「健全な心身の育成」、「学力の充実」、「地域との連携」を柱に、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、心身ともに健全で叡智に富み、凛とした気品のある心豊かな人材の育成をめざす。 そのために、全職員が教育者としての基本的資質（①教育的愛情と人権感覚、②使命感と向上心、③組織の一員としての自覚）や専門性（①生徒理解と豊かな心の育成、②学習の実践的指導力、③保護者・地域住民との連携）の向上に努めるとともに、互いの連携と協力のもと、創意工夫を生かした教育の実践に努める。

2 本年度の重点目標
(1) 目的と目標の明確化による共通理解に基づいた協働体制の強化 (2) 進路指導体制の充実による指導力の向上と自己実現の達成 (3) 平日及び土曜日授業の充実と平日放課後の有効活用 (4) 幅広い経験に基づいた自己変革力の育成を図る指導 (5) 道徳教育と人権教育の推進

3 自己評価総括表					評価	成果と課題
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策		
大項目	小項目					
学 校 経 営	学校経営の方向性の具体化	学校改革の更なる推進を目指す取組検証提言と各部・学年教科等による実行	取組の検証と課題の整理を行うことにより、多忙感軽減の具体的プランを実行する	・昨年度の取組の検証結果を踏まえ、各部・学年・教科等でアクションプランを作成し、実行に移す。特に、担任の業務量軽減について重点を置く	B	・業務の改善を目的に大学の先生からの助言や年度末反省を通して課題が明らかになったので次年度に向けて更なる改善を押し進めていく。
	組織の連携と全職員の共通理解	学校教育目標実現に向けた組織の連携強化	運営委員会を中心とした各部の連携強化	・各部・各委員会での入念な打合せと関係部との事前協議 ・運営委員会、職員会議による協議と情報共有 ・年度末反省、学校評価等による検証	A	・関係部署、職員と予め打合せを行うことによりスムーズな運営委員会の進行が出来た。 ・従来とは違う年度末反省を実施した。
		平日放課後の有効活用	モジュール学習の発展的改良（新入試に対応できる力の育成）	・学習力向上委員会により効果的な教材や方法を検討し、全職員の理解の元に実施する	B	・モジュール学習の準備や方法に少し課題が残った。次年度に向けて変更を加えていきたい。
		信頼される学校	開かれた学校づくり	保護者・地域・小学校・中学校・大学との連携	・公開授業週間について外部に向けた周知徹底（特に中学生）と内容の充実 ・小、中学校への生徒による学習支援事業の実施 ・地域への学校行事の連絡や協力依頼の徹底	B
		特色ある学校行事等の情報発信	マスコミやホームページ等の積極的活用	・マスコミ等を活用した学校行事等の情報の積極的な発信 ・ホームページの随時更新を実施し新鮮な情報の発信 ・「学校安心メール」の保護者登録を増やし、有効に活用する	A	・部活動や個人単位で多くの生徒が取り上げられ、学校の広報に役立った。 ・ホームページの更新は可能な限り実行できた。 ・学校安心メール

						の保護者登録はほぼ100%近くになった。
	教育環境の整備	必要な設備の充実と安全管理	施設・設備の充実と安全点検、環境ISOの取組	・省資源（昨年度比5%減）、リサイクルなど宣言項目の周知、行動の徹底	A	・省資源に向けて生徒会の取組を中心に十分に実施できた。
	危機管理意識の向上	学校運営協議会の合理的な運営	地域や外部との連携強化	・生徒や職員に対する防災等に関する情報提供の充実と防災マニュアルの実働	A	・防災訓練も例年にまして本番に即した内容で実施できた。
		緊急事態発生時における適切な対応	事故発生を未然に防ぐための対策を想定した準備	・危機管理マニュアルの利用徹底と職員研修会による日常の意識向上	A	・危機管理マニュアルを徹底し、特に事件、事故を起こさない取組が充実した。
学力向上	授業の充実	アクティブラーニング型授業の実践	全職員による最低2回の授業の実践	・1学期と2学期にそれぞれ約1か月の公開授業の期間を設けて実施し、評価シートを導入。	B	・同教科の授業参加は活発であるが、他教科の授業に参観により活発になるように働きかけたい。
			アクティブラーニング型授業を授業研究の場として実践	・本校におけるアクティブラーニング型授業の定義の確認 ・アクティブラーニング型授業に関する職員研修の実施 ・全授業者を対象とした最低1回以上のアクティブラーニング型授業実践の取組 ・アクティブラーニング型授業に関する教科会の実施 ・授業評価アンケートの実施と活用（各学年：年2回）	A	・新指導要領が求める授業改善について、職員研修で共通理解を図ることができたと考えられる。アクティブラーニング型授業の実践は次年度以降も継続して取り組みたい。 ・授業評価アンケートの結果を授業担当者に報告し、これまでの授業の振り返りに活用してもらうことができた。
	家庭学習時間の増加	各学年家庭学習時間の増加	平日2時間の家庭学習時間の確保	・学習実態調査等で生徒の取り組み状況を把握し、授業の工夫改善等を教科会で検討。 ・調査の分析を通して、担任との二者面談や教科担当者面談の実施。	B	・家庭学習時間の目立った増加は見られなかったが、予習・復習のあり方や週末等の課題については教科・科目で概ね検討が進んだ。
キャリア教育（進路指導）	夢実現に燃え、進路を自ら拓く意欲の育成	進路情報の共有化と発信	進路環境や生徒の現状に関する情報の発信と共有化推進	・3年進路検討会、1～2年学力分析会の実施と充実 ・「進路ニュース」（年4回）の発行 ・進路委員を用いたキャリアガイダンス情報の提供 ・進路だより等を用いた高大接続改革に関する情報発信	B	・進路検討会等、概ね年間計画通りに実施することができた。進路だよりは大幅に発行回数を増やすことができた。進路委員を用いたキャリアガイダンスの情報はあまりできなかった。
		教科指導力及び進路指導力の向上	各教科との連携強化による教科指導力及び進路指導力の向上	・大学入試説明会等参加の促進及び情報の還元 ・問題作成研修会参加の促進 ・高大接続改革に関する情報共有 ・大学入学共通テストプレテストに関する分析 ・ポートフォリオ作成の体制整備	B	・各種説明会や研修会には、多くの先生方に積極的に参加していただいた。入試改革に関することについては、国の方針転換もあったため、準備を進めることができなかった。

		進路志望実現に向けた、生徒自身の主体性向上	進路志望実現に向け、生徒が主体的に選択し、探求し、活動する環境の整備	・オープンキャンパスにおける模擬授業等への主体的参加の促進 ・キャリアガイダンス（出張講義）の実施（年間10回以上、平均参加者30人） ・各種ボランティアやシンポジウム等への主体的参加促進 ・GCP委員会との連携による異文化交流活動への主体的参加の促進 ・受験の手引きの活用促進 ・進路資料室の整備と利用促進 ・ポートフォリオ作成のための指導時間の確保	A	・生徒たちは様々な活動に積極的に参加していた。特に、キャリアガイダンスは、平均参加人数が63名ということで、目標を大きく上回ることができた。進路選択の一助になったのではないか。受験の手引きに関しては、3年生以外の活用促進について検討していきたい。
生徒指導	生活指導の継続と徹底	基本的生活習慣の確立	自己管理力の向上 ・整容の徹底 ・時間の厳守（遅刻者を無くす。） ・礼節の徹底（発声挨拶の徹底） 通信機器の使用に関するマナーの育成（SNSに関するマナー）	・礼節、整容、遅刻指導の実施 ・定期的に整容検査（指導）を実施する。 ・時間の厳守（5分前集合を徹底する） ・生徒会による月1回（一週間）の挨拶運動を実施する。 ・SNS等のネットモラルやマナーに関する研修会を実施する。	A B	・朝の登校時間や授業の始業時間に関して、自ら遵守しようとする姿が見えてきている。 ・整容に関して大きく乱れている生徒はいない。ただ、一部の生徒に軽微な違反が見られ、今後も継続的に指導にあたっていく必要がある。 ・スマホ等の通信機器の進化が著しく、その対応に苦慮している。最終的には個々のモラル等、心の指導が今後大切だと捉えている。
	安全教育	交通安全教育と交通マナーの定着	自転車に関するルール遵守の徹底 登・下校中の事故防止を図る。	・定期的に自転車通学生集会を実施し事故防止に関する研修会を行う。 ・「交通安全の日」の活動を含む交通安全教育の一環で、正門と校舎に横断幕と垂れ幕を掲げ意識を高める。	B	・大きな違反や事故に至ることはなかったが軽微な違反やマナーに関しては課題が残った。 ・交通安全の日に関しては横断幕を活用し意識の高揚に繋げることができた。
	自主自律の精神	規範意識の高揚とリーダーの育成	一高祭（体育・文化部の充実） リーダーの育成	・生徒会を中心とした組織の中で生徒が企画運営に携わり、学校行事運営を充実させる。 ・リーダー研修会を実施する。（生徒会、部活動等のリーダーの育成）	A	・生徒会行事に関して、自主・自律の精神が浸透し教師が手を加えることなく滞りなく終えることができた。今後も継続していきたい。
	教育活動全体を通じた教育の推進	職員、生徒の権利意識の高揚	人権教育推進の年間指導プログラムの実践	・人権教育講演会の実施 ・生徒相談部と合同の職員研修（年3回） ・各学年人権LHRを実施（年3回）	A	・合同講演会はアンガーマネジメントに関する講演会で、職員にも生徒にも好評であった。 ・各学年でのLHRは、生徒により効果的に見えるよ

人権教育の推進	「命を大切にする心」を育てるための指導	「命を大切にする心」を育てるための指導	「命を大切にする心」を育てるための指導	「命を大切にする心」を育てるための指導	「命を大切にする心」を育てるための指導	「命を大切にする心」を育てるための指導
いじめの防止	健全な人間関係の構築	いじめ根絶に向けた取り組み	いじめ防止の年間指導プログラムの実践。アンケート結果への組織的対応	・「いじめ防止の日」（月1回）と「いじめを許さない宣言文」の宣誓（→いじめゼロを目指す） ・全学年の生徒人権委員会主導でいじめ防止についてのLHRを実施 ・いじめについてのアンケート（4回）結果を受けての組織的対応	A	・いじめを許さない宣言は、生徒人権委員会により毎月実施した。1学期での人権LHRでは、いじめに関して、人権委員が中心に運営することができた。 ・いじめアンケートは現在まで3回実施。
特別支援教育	気づきと基盤づくり	特別支援教育の必要な生徒と支援策の実施	支援を必要とする生徒の生活環境を整えるための取り組み	・組織的な支援体制の構築（特別な支援や配慮を必要とする生徒への対応） ・学年会、教育相談部会、校内委員会を通しての情報収集・共有と関係職員との連携 ・生徒理解研修による全職員の共通理解 ・SCや支援員、外部機関との連携	B	部会や学年会、生徒理解研修を通して情報共有を行い、SCや支援員とも連携して対応することができた。課題として、ケース会議のあり方や、特別支援・配慮対象生徒への支援体制があげられる。
地域連携	地域と連携した防災活動の実動化	地域の防災活動の推進	自然災害への対応力向上のための取り組み	・年間5回の学校運営協議会の開催 ・一新校区の防災訓練に生徒・職員が参加する ・本校独自の防災マニュアルをいつでも活用できるように理解する	A	・学校運営協議会は定期的に実施できた。 ・一新校区の防災訓練に生徒を参加させることが出来た。今後とも続けていきたい。 ・避難訓練等も実際に想定した内容で実施できた。

4 学校関係者評価

学校関係者評価委員の皆さんから、学校評価アンケート結果や学校評価の自己評価を踏まえた意見や提言をいただいた。本校の教育活動全般については高い評価をいただいております、本校への期待の大きさが伝わる内容であった。主な意見や提言等に関しては以下のとおりである。

- ・アンケート結果から生徒や保護者の意識の高さがよくわかる。ルールやマナーも非常によく守られており先生方の行き届いた指導を感じます。また、充実した高校生活を送っていることがよく分かります。
- ・生徒の主体性を高めるための取組をいかにしていくかが課題でこれには授業改善が一番大切ではないかと感じる。
- ・読書量が少ないのが大変気になります。強制力を持ってでも読書はさせるべきです。
- ・小学校からスマホに慣れ親しみ、いつでもどこでもスマホを見る習慣があり、時間の管理などしにくい状況がある。学習時間の確保については具体的な取組が必要である。
- ・生徒、保護者、教職員とも評価はおおむね高く学校生活の満足度はかなり高いと思われます。ただ、教職員と生徒・保護者のポイントがかなり開いているものがあるのは気になります。

5 総合評価

学校評価アンケートの結果から、どの項目に対しても概ね良好で生徒の満足度は大変高くなっている。保護者の意識も高く学校への大きな期待を感じ取ることができる。また、外部からの評価も年々高くなっており第一高校のあるべき姿に近づきつつある。男女共学も8年目を迎え安定してきている。更に高みを目指すためにいくつかの課題が見つかった。

第一に自分の将来を真剣に考え自主的に未来を切り拓いていけるような生徒の育成である。限りない可能性を秘めた生徒たちが十分な力を発揮できるようなステージを用意することである。そのためには基本となる授業の充実が一番に上げられる。深く考え自らの意見を述べるような授業形態を作ることと、教師の授業力の向上を進めていくことが課題である。

第二に生徒の自己肯定感をいかに高めていくかである。真面目でおとなしい生徒が多い中でリーダーシップを発揮し周りの生徒を引っ張っていけるような力を身に付けさせたい。生徒中心で行事を企画運営できるような仕組みを作り、教職員は後で支えるような形が望ましいと考えている。

学習指導要領の改訂、大学入試共通テストも間近に迫っている。思考力を高めることが何より重要である。授業形態の工夫（ICTの積極的活用、自ら自分の考えを発信できるプレゼン力）や質の向上に全職員が一丸となって取り組む必要を感じている。

働き方改革が叫ばれ、教職員の負担感軽減を本校においても取り組んでいる。部活動の指針に則った指導を行うことや無駄を省き組織的に動くことなどによって教職員に少しでも余裕が生まれれば、それによって生徒への指導も充実したものになることを皆が理解し実践していくことが大切であると考え

6 次年度への課題・改善方策

- ・生徒が自主的にかつ積極的に学校生活が送れるように教職員がサポートしていく。
- ・負担感軽減の取組については継続的に取り組む。思い切った業務の削減や行事の見直しなどを実行していく。
- ・授業が第一であるという認識を深め、授業の質の向上に努める。ICT活用などの積極的な取組を進めていく。
- ・公開授業の広報に努め、特に中学生にできるだけ多く参加してもらう仕組みを考える。